

「住民の自治力」を考える

～ 山の湊しんしろからの報告 ～



八木 憲一郎
(地域と協同の研究センター
三河地域懇談会 世話人)

1. これから報告すること

- 今報告された「やなマルシェ」の活動
- この後報告される「地域ささえ愛」の諸活動はじめ新城市の地域福祉活動

- ◆ これら「地域の活動」を推進するもう一つの大きな柱
 《市民・住民と「市」が一緒になって進めている「**地域自治区**」の活動》
の取り組み例をご紹介します。

「つながる力 ゆたかさ開拓 山の湊しんしろ」をめざして

「つながる人々」を増やし

支え合う力と稼ぎ出す力で

まちの未来を創る

(「第2次新城市総合計画」より)

2. まず初めに 「やなマルシェ」の活動の底に流れている 「協同組合間協同」の取り組みをご紹介します

○ 中山間地での「協同組合間協同」をめざす愛知東農協とコープあいちの協同活動

豊川(とよがわ)の上中流地域の農業協同組合と中下流で暮らす人たちの生活協同組合の協同は、**生産と消費の取引・つながりをこえ、くらしの協同・地域づくりの協同へ**

- ① 1984年、東栄町農協とみかわ市民生協の「鶏肉とこんにやく」の産直がスタート
- ② 1999年、北設楽郡の農協が合併し「やまびこ農協」が誕生。産消提携事業15周年記念の交流会で「提携書」に調印
 - * 奥三河の山と三河湾にそそぐ川と農産物を守る「総合提携」
 - * 「山と水と緑の協同組合まつり」の開催(つながる人・モノ・くらしと地域の交流)
- ③ 2002年、やまびこ農協と愛知東農協が合併、翌年「新たな提携書」調印
- ④ 2010年、めいきん生協・みかわ市民生協が合併し、新しく誕生したコープあいちに引き継ぐ

○ 農協女性部員・生協の地域委員・八名地域協議会委員の女性たち……

(JA) + (coop) + (地域) + (新都市のまちづくり) + 女性 = つながる人々 + 支え合う力 + 稼ぎ出す力 ⇒ **まちの未来**

3. もう少し詳しく 新城(奥三河)地域におけるJAと生協の取り組みをご紹介します

- 地域ごとの生協づくり(地区別生協づくり)⇒JAと生協組合員の地域内連携
 - ① 産消提携活動 ⇒ 暮らしの協同、地域づくり・まちづくりでの協同
 - ② 組合員の生協 ⇒ 自立と協同、自治 ⇒ 人間らしい暮らし創造
 - ・ 農協も生協も、協同組合は「**自発的に手を結んだ自治的な組織**」
 - ③ 農協組合員も生協組合員も、同じ地域で共にくらす人(同じ場合も)
 - ・ 農畜産物の提携だけでなく、暮らし・文化・健康・福祉、協同など提携し合う分野は広く大きい
 - ・ 豊川の上流・中流と豊川の中流・下流とは一つにつながっている
- 新城市を入口とする奥三河の地域の**JA(= 愛知東農協)**と共同購入や福祉事業を行う**コープあいち**の奥三河地域の人と事業と活動は、強く結び合い、つながっている ⇒ 総合提携の芽もいっぱい
- やなマルシェの取り組みは、これからの「農協」の活動だけでなく、コープあいちの活動にとっても、新城市のまちづくり活動にとっても、大きな「お手本」!

○ そんな「協同組合間協同」の出発点になった
やまびこ農協・みかわ市民生協の「**提携15周年記念の大交流会**」



**提携15周年記念の
交流集会・調印式から**

(1999年10月24日)



- そして20年余
地域の中で、諸団体の皆さんと連携し、くらし丸ごと助け合うまちづくりへ
— 「山と水と緑の協同組合まつり」のひとこま —



4. 山の湊しんしろからの報告

— 新しい地域づくり・まちづくり、自治するまちをめざして

(1) 2005年に新・新城市が誕生して、17年目・・・

○ 第一次新城市総合計画（2008年度～2018年度）

「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」

- ① 合併後の一体感の醸成、均衡ある発展
- ② 新しい公共、市民自治社会の実現をめざして
自治基本条例、まちづくり集会、若者総合政策、
地域自治区制度、地域協議会、
地域産業振興総合政策



女性議会の一コマ

(2) 2008年に「第1次新城市総合計画」がスタートして、14年目・・・

○ 第二次新城市総合計画(2019年度～2030年度)

「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ」

- ① 少子化、超高齢社会への対応
- ② 支え合う力と稼ぎ出す力でまちの未来を創る
新しい絆、誰もが孤立しない社会の
地域計画、地域マネジメント、
地域経済循環の仕組み

○ 新しい公共、市民自治社会をめざして

- ① “山の湊 創造都市 しんしろ”“地域自治区制度”充実・強化
- ② 地域自治区制度の一層の充実と発展をめざして
 - ・ 10の地域協議会全てに「地域計画」ができ、それぞれの地域の課題を地域(と市)で解決する実行計画に基づく取り組みが始まった
 - ・ 「自治するまち新城」の制度(条例)を継承・発展させて
 - ・ 地域協議会の強化をめざして地域マネージャー(制度)の検討が始まった
⇒ まずは地域協議会ごとに検討を始めることから

(3)めざし、取り組んできたことを振り返ってみると・・・

- 新城市自治基本条例を考える市民会議が発足(2010年4月)
 - * まちづくり茶話会(市内各所で)⇒「市民のことばによる新城市自治基本条例」
 - * **新城市自治基本条例検討会議**(2011年5月)…公募市民41名で発足
 - ⇒ 住民の声+高校生・若者・中学生の声+高齢者の声
 - ⇒ 市民プレ総会の開催(2011年10月、2012年7月)
 - ⇒ 2012年8月 条例案市議会へ

- 新城市自治基本条例の制定(2013年4月施行)

- 市民自治(住民参加のかたち)
 - * まちづくり集会、市民自治会議
 - * 若者総合政策・・・若者議会・中学生議会(つながる地域と若者の輪)&女性議会
 - * 地域自治区制度
 - ⇒ 地域協議会、**地域自治区予算、地域活動交付金**



① 新城市自治基本条例第17条に定められた「地域自治区」

地域内分権を推進するため、別の条例で定めるところにより、市長の権限に属する事務の一部を担い、地域の住民の意見を反映させつつこれを処理する地域自治区を設置する

② 地域自治区には・・・

- * 住民による「地域協議会」と活動サポートの行政機関「自治振興事務所」
- * 地域の行政組織（行政区・自治会）とは異なる位置づけと活動
- * 地域自治区は、旧新城市5、旧鳳来町4、旧作手村1の計10自治区
(行政区は、全136行政区)
- * 協議会の委員は地域ごとに定めることになっている
区長会の代表＝区長または副区長の「全員～数人」まで様々
区長会推薦（自薦含む）＝1人～10人くらいまで様々
- * 協議会の重要な任務・・・地域活動交付金の審査、地域自治区予算の建議

(4) 2013年4月に発足して9年余、地域自治区制度に一層磨きをかけて

○ 地域や地域協議会活動の変化を力にして

① 人—女性・若者に広がってきた地域協議会の活動

* 女性議会や若者議会に参加した人たちが地域協議会の委員に

* 地域活動に広がる女性・若者の参加

・・・地域活動に取り組むこども園の母の会

地域のことを伝えるホームページ作成部会に参加する若者

子育てを支援するグループの活動

などなど

② 若者議会や女性議会などの新しい仕組みを通じて、今までにない市民の多様な意見が反映され、結果的に住民による市民自治がすすんだ。若者議会や女性議会に参加している地域の住民は「若者や女性の利害、価値観、希望に向き合い、受け入れる意思や姿勢や組み立て」が行政にあるかどうか・・・、しっかり見ている。

⇒ これからのまちづくりには、これまで十分でなかったこれらのことをしっかり受け止め、具体化していくことが求められている。

○ 第二次新城市総合計画と10の地域協議会それぞれが作成した「我が地域の地域計画」を生かし、新城らしい、新城ならではの「地域自治区(制度)」に育てよう、と取り組んでいる。

(5)新しい可能性をめざして・・・ある地域の活動から①

- 地域の声を実現させたい・・・『えがお 笑顔 えがお だから動く』
 - * 毎年の茶話会で出されるたくさんの声 = 「地域の困りごと」「解決したい課題」
 - 同時に、繰り返し出される意見・感想＝困りごとを100個、100回出しても「問題は解決しない」
 - * 「ならば動こう」・・・と、6人の若者は考え、語り合い、地域の「長老」にも相談した。
- 地域協議会で話し合い、区長や協議会委員の賛同も得て始まった「井戸端会議」の会
 - * 会の運営に必要な費用を「自治区予算」の一つとして市長に建議
 - * 老若男女、二十余名で「井戸端会議の会」が発足。月1回、土曜日の夜に集まって意見交換
 - ⇒ 地域の交通を考えるグループ、地域の見守り助け合い活動を考えるグループ、地域の草刈支援を考えるグループ、地域の出会い・イベントを考えるグループなどに分かれて、求められることやできることなどの相談が始まって1年。少しずつ全体像が見えてきた。
- 将来の方向や活動内容(事業計画)などが見えてくると、「会」の運営や組織づくり・ルールづくりなどの「新しい」テーマ・課題が生まれてくる。先進地域などの見学や学習を重ね、知恵も出し合って、**今、新しい歩み**が始まろうとしている。

(5) 新しい可能性をめざして・・・ある地域の活動から②

- 21年3月に完成した「地域計画」には、「わくわくするまち」をめざす「暮らそう・守ろう・育てよう・学ぼう・楽しもう」の5つのテーマを柱に、地域の人たちが取り組む目標・課題が盛り込まれました。その一つに、地域自治区のホームページの開設・運営という新しい事業(活動)があります。
 - * 地域の魅力を住民のみなさんに発信するため、地域自治区専用のホームページを開設しました。ホームページに掲載する情報は、地域の歴史・文化・名所などのさまざまな魅力や地域協議会に関することのほか、地域で活動している方などにインタビューを行い記事を作成していきます。記事は、毎週水曜日の正午に更新していく予定ですので、楽しみにしてください・・・と始まりました。
- そして1年。多くの情報・話題が掲載され、日本全国だけでなく、海外からもアクセスがあります。15人を超える編集部員は、20代から70代と幅も広く、ホームページの将来の発展方向なども話し合われるようになりました。
 - * 地域協議会のもとに生まれた活動ですが、自立の方向も話し合われています。勿論、現在のホームページの充実が第一の課題です。
- 課題解決を市に丸投げするのではなく、地域の住民を中心に、幅広い市民や団体・企業を力も活かし、市の協力を求める取り組み(計画)が広がり、若い人の参加の輪も広がり始めました。

5. まとめにかえて

- 新しい新城市が誕生して間もなく17年。
 - * みんなで話し合い、制度・ルールを積み上げ、実践を通じてよりよいものに育ててきた「自治区制度」はこれからだ
- 「第二次総合計画」も、間もなく4年。
 - * 「さらなる未来へ」向かって、「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ」をめざして、地域・地域の活動を更に豊かに発展させたい
- 奥三河における協同組合間協同の実践も、30年余。
 - * 「自立した市民の協同の力」を大いに発揮し、「人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現」を一層めざしたい、と思う

ご清聴ありがとうございました